

クローン

に於ける

創造の概念

— 創造の反響を中心として —

《 序 言 》

グループとはアッラーの創造と讃える者、
創造讃歌であるとしても過言でないほど、
アッラーに与る創造とその恵みを強調する言
葉に充ちてゐる。これらの言葉と採録してゐ
るうすに興味深い表現群にぞくわした。それ
らの表現はグループ全体を通じて15個ほど
ある。これらの表現を通ずるその特徴と抽象
的にまとめれば、創造の反覆と云ふことが出
来るであらう。つまり創造の反覆を特に強調
する表現が15個あるのである。グループに見
出される創造の概念はもはや多様である
が、以下論述をこの創造の反覆と云ふことに
焦点をあてておこなつてゆきたい。

上に述べた15個の表現群とは次のものである。

① 7章29節(28)^①

كما بدأكم تعودون

② 10 章 4 節

لأنه يبدؤا الخلق ثم يعيده

③ 10 章 34 節 (35)

من يبدؤا الخلق ثم يعيده

④ 10 章 34 節 (35)

لله يبدؤا الخلق ثم يعيده

⑤ 20 章 55 節 (57)

منها خلقناكم و فيها نُعيدكم
ومنها نُخرجكم تارةً أخرى

⑥ 21 章 104 節

كما بدأنا أول خلقٍ نُعيدُه

⑦ 27 章 64 節 (65)

أمن يبدؤا الخلق ثم يعيده

⑧ 29 章 19 節 (18)

كيف يُبدئُ الله الخلق ثم يعيده

⑨ 29 章 20 節 (19)

كيف بدأ الخلق ثم الله يُنشئُ
النشأة الآخرة

⑩ 30 章 11 節 (10)

لله يَبْدُوا الخلقَ ثم يُعِيدُهُ
ثم إليه تُرْجَعُونَ

Ⓐ 30章 27節 (26)

هو الذي يَبْدُوا الخلقَ ثم يُعِيدُهُ

Ⓑ 32章 7節 (6)

الذي أَمْسَنَ كُلَّ شَيْءٍ خَلَقَهُ
وَبَدَأَ خَلْقَ الْإِنْسَانِ مِنْ طِينٍ

Ⓒ 34章 49節 (48)

مَا يُبَدِّلُ الْبَاطِلُ وَمَا يُعِيدُ

Ⓓ 71章 18節 (17)

ثم يُعِيدُكُمْ فِيهَا وَيُخْرِجُكُمْ إِخْرَاجًا

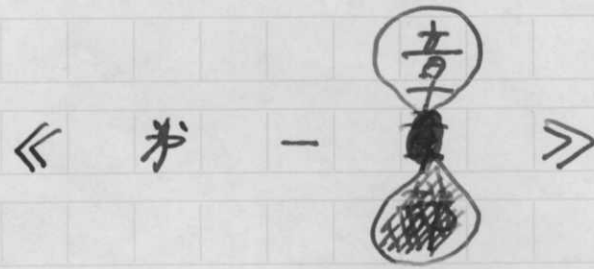
Ⓔ 85章 13節

إِنَّهُ هُوَ يُبَدِّلُ وَيُعِيدُ

この15個の表現に u と t と r と m と n と p と q と
と ^② と、一定の表現形式が Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅶ, Ⅸ, Ⅺ の中に見出される
ことが分かる。それと以下 ~~の表現形式~~ と

= 一定の表現形式 ① 検討するに t と r と m と n と p と q と
~~の表現形式~~ (含めると Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅶ, Ⅸ, Ⅺ の中に見出される)
の表現形式 ② 検討するに t と r と m と n と p と q と

と合んでゐる上記の 5 個の諸節 (Ⅲ) と (Ⅳ) は同一の節) を検討するにからはじめ、次に残りの 9 個の諸節の検討に下るといふ順序で問題の考察を行なつたと思ふ。そしてその考察を行なつながら、適宜に、グループンにとつて重要だと思われれる事柄をピックアップして、その分析を試みたと思ふ。



一定の表現形式を含む個々の諸節 (5)

[39 (-) 10章4節]

10章4節の全体を問題の箇所を除いて知款としてみる。『汝等(人間は) = と = とく(アッラーに) 帰ってゆく。これはアッラーの真実の約束である。誠に後(アッラー)は $\text{بَيِّنَاتٍ مِّنَ الْخَلْقِ ثُمَّ يُعِيدُهُ}$ といはれて善を行なうに努めさせる者にアッラーが正當に報い給わんがためである。それとして信仰を拒んだ者に対しては熱湯を飲む = と (10章9節他9) 苦痛に充てた刑罰が(用意されて) あるのである。これはその者達が信仰を拒み続けるにせよとある』とある。さてこの文脈のなかで問題の表現(原文のアラビア語の مَّا بَقِيَ (これである)) とも自然に試款としてみれば、アッラーは創造

と始の論... ついでそれをもとに戻し論すと
 なまごあさう。無論 = れは意味が明瞭な文と
 は言... かねる。この小論の目的は = れを句と
 前述の15個の表現群が結局のて = 3何と意味
 して = 3かえ出まるとだけ明確にあり = とな
 である^⑤。ともあれ問題の箇所を上記のあすに
 読み直し、~~この~~¹¹、さてこの節の全体的な
 意味を検討してみよう。初めから順を追って
 みてみる。

{ ④ 全節の意味の検討 }

① 人間はアッラーに帰る

10章4節は汝等(人間は) = と = とく (ア
 ッラーに) 帰るとゆくと... 文章ではじま
 てる。註⑤で触れたあすに、 = れは意味の
 曖昧な文章である。原文は إليه مرجعكم جميعاً であ
 る。逐語的に日本語に置き換えてみると 汝等
 = と = とく = の 帰ると = 3 はアッラーである
 とあるであさう。

帰ると = 3 (مرجع) とは、元来 = 3 に人

間がいたとこそ、今現在はそうではないかも知れ
 ないが、元々そこから人間が出生したと
 こそと、意味がある。つまり、人間は今
 はアッラーから離れて存在しているかも知れ
 ないが、元はアッラーのとこそ存在してい
 たのであり、それからやがて再びアッラーの
 とこそで存在するようになるであろうと、
 ことが意味されて、いと考へることのできる
 ことと、しかしながら、人間は生まれ
 る以前には魂として神様とともにあり、
 世に人間として生まれ、てきて神様のもとを離
 れ、やがて死んで肉體は朽ちても魂は不滅
 で神様のもとに帰ると、よくある図
 式にあらはれることは大きな誤りである。こ
 れはイスラームの考へ方として非常に重要な
 点であるから以下に詳しく検討してみよう。

先づ第一に、人間が人間として現世に生ま
 れる以前に人間は何であり、どこにいたか
 と、この問題をたてるとする。これが問題とし
 て成立するかどうか、これは、たしかに、

このよう疑問「が」に答えてあり、グループ
 ンはこれに答えてどう答えるのかと尋ねられ
 て「さ」とする。興味深「ニ」にはグループン
 にはこのよう疑問「に」直接に答えて「さ」の記述
 は「さ」。「さ」より生まれる以前には人間はあ
 った、た「さ」だったと「さ」の「さ」の記述の
 みにあつた「さ」の「さ」である。グループンにはその
 ような記述が「さ」と「さ」ニ「さ」興味深「さ」の
 であり且つ「さ」が「さ」グループンだ。そんなつ
 まいぬ問題は相手にし「さ」の「さ」とは「さ」しく
 思うのである。それは「さ」の「さ」、その問題に
 関係的に、即ち、グループン「の」他の記述から
 類推して「さ」の問題に答えることが、次のよ
 うに「さ」である。「さ」。人間は現世に生まれた時
 がその人間にとつて「さ」の「さ」の「さ」である。
 或る人間の靈魂が現世以外の「さ」に「さ」先ず^庄
 として、ついで「さ」がその人間の肉体と結合し
 て現世に生まれてきたとは考へない。元来イ
 スラームでは靈魂と肉体とは「さ」元的に峻別し
 ら「さ」のである。肉体と「さ」言葉に「さ」応ずる靈

魂と…の言葉はもつとんあるけれど。或る人間はその人間の肉体と（それとは全く本質的に異なる）その人間の靈魂とから成り立っていると…のよう存在想ではなくて、イスラームに於ては肉体と靈魂とが「わがまじりあ」って…で、互いに他と離れた存在と…そのは考えられて「互」のうちにみえるのである。その「うわげで人間が現世に生まれた時に、肉体のみならず靈魂も一緒に、且つ両者は二元的に考えらるるのではなく「わが」一体となつて、その人間として創造されたのである^⑥。従つて人間としてこの現世に生まれる以前の彼と「うも」は「互」と云わねばならない。

何故このよう存在考え方になまかと言ふと、それはアラブ人に独得な基本的な^{もの}観方、考え方と関連して「互」からである。アラブ人は抽象よりも具体、一般的よりも個人的な存在に関心を抱く。だから例之ば人間と「うも」を考へるにしても、それを抽象的一般的に人間存在とて「突然」として考へる

ではなく、男か女か、年齢はどのぐらゐで、
 顔はどろで、体つきはどろで集るといふよ
 うに具体的に個別のにとらえようとする^①。従つて
 、人間としてこの世に生まれる以前のその人
 間といふものを考へる場合にも、アラブ人と
 しては男女の別、老人か若者か、顔はどろか
 集るの諸要素も考へに入れなければ気があ
 らないのである。或るアラブ人の45才の小太り
 の男が、生まれる以前の自分といふものを考
 へる場合、男女の別はともかくとして、一体
 自分はその時子供の状態で存在してゐたのか
 、若者の状態でか、それとも老人か、太
 りてゐたのか、やせてゐたのか等々がただ
 に問題となる。老人であつたといふのは奇妙
 であり、若者の状態で存在してゐたといふの
 も無理であるらし、あまり不自然ではないのは
 天使みたくなつた子としてであらうけれど
 も、後に触れるよろに人間をつねに成長・変
 化の相ごととらえてゐるグループ（グループ
 にはアラブ人独自のものをみかたが結晶化